

教育事業「阿蘇の草原キッズになろう ～秋編～」事業報告書

企画指導専門職 加治佐 秀樹

1 事業概要

(1) 実施期間

平成26年10月6日(月)～7日(火) 【1泊2日】

(2) 活動場所

国立阿蘇青少年交流の家及び周辺牧野

(3) 参加者

宮地小学校5年生76名 引率者4名

※ 草原環境学習小委員会7名、ボランティア4名、

(4) 事業内容

1日目：午前 町古閑牧野、交流の家野草園散策、来訪者に草原を伝えようプロジェクトの2つの謎
午後 開講式、草泊まり作り、草原迷路

夜 草原環境学習(学習小委員会メンバーによる劇)

2日目：午前 赤牛とのふれあい体験学習、振り返り学習、閉講式

2 成果と課題(含むボランティアの意見)

(1) 成果

- 阿蘇市内の環境保全にかかわる団体との連携事業のため、すべての活動において、専門的かつ児童に分かりやすい内容で、深く充実した活動プログラムができた。

<草原散策と草原プロジェクトのPP>

- ・ 移動にかかる時間を減らし、活動を充実させるため、今回は草原散策を交流の家野草園で行った。フィールドビンゴを使った散策だけでなく、パワーポイントを使った草原の謎と生き物の謎について学習をすることができた。

<草泊まり作り>

- ・ 手を使ってススキを束ねる作業を繰り返すことによって少しずつ慣れた。また何度もそれを運びながら、友達と協力して草泊まりを作り上げることができた。作業の大変さと充実感を味わうことができた。

<草原環境学習>

- ・ 草原の歴史、現状、保全等について児童が理解しやすいよう、学習小委員会メンバーによる劇を行った。児童・先生ともに、「草泊まりを作っていた意味がよく分かった。」や「楽しく学べた。昔の人の知恵が分かった。」等、とても好評であった。

<赤牛とのふれあい体験>

- ・ 牧場に入っの餌やり体験や牛の背へのネーミング等、児童にとって貴重な体験ができた。児童もたくさん質問し、組合長のこたえをメモをとりながら真剣に聞いていた。また、ボランティアの方々のアドバイスで牛のエサのあげ方について事前指導をした。牛がエサをこぼすことなく食べることができた。

- 報道機関がサプライズで取材に来た。新聞掲載されたことは阿蘇の草原保全や交流の家のアピールとなった。

(2) 課題

- 学校の年間計画の中にしっかりと計画を入れてもらうようにしなくてはならない。各校の年度計画段階から働きかけていく必要がある。
- 担任の先生方がもう少し活動に入ってもらえるようにしたい。
- 草泊まりを作成するときの流れを覚えておかななくてはならない。今回はみんなで一斉に草運びをしたために手持ち無沙汰になってしまう子が出てしまった。草を骨組みに固定する子と運ぶ子にわけると作業分担をしつつ、手持ち無沙汰になる子を出さない工夫が必要である。
- フィールドワークをできるかできないかで成果が大きく左右される事業である。雨天プログラムになってしまった場合でもそれなりの成果をあげるようなプログラム開発が必要である。

事業中の様子



町古閑牧野での学習の様子



野草園での学習の様子



阿蘇の草原の謎を学習している様子



草泊まり作りの様子



劇をとおしての草原学習



劇をとおしての草原学習



牛へのえさやり体験

牛の背にメッセージ書き